

市内の野鳥160種類

以上から絞り込み 「大変だった」

市から、市の鳥選定委員会委員（以下、委員）になってほしいと依頼されたのは今から25年前のことです。環境保全が叫ばれる中、市制施行20周年の節目に市の鳥を制定し、自然保護と鳥獣愛護のシンボルとして役立てたいとのことでした。

当時、私は県の職員として自然保護や野生動物の仕事を行う傍ら、市の公民館講座で野鳥に関する講義を行っていました。15人の選定委員の中で、鳥の専門家は私と鳥獣保護委員の方の2人だけ。市内にいる野鳥160種類以上の中から海老名市にふさわしい鳥を選定するのですから、とても大変だったことを覚えています。

選定には、①狩猟鳥獣ではないこと、②近隣で制定されていないこと、③農作物を荒らさないこと、④市内で一年中見られる留鳥であることなどが条件でした。まずは、条件に合う鳥をコサギ

やツバメ、カワラヒワなどの15種類に絞り、広報誌面やまつり会場でアンケート調査を行いました。それらで得た意見も参考に、選定に向けて農業関係の方とも慎重に検討を重ねました。

選定の決め手は「身近にいるけれど控え目で美しい」

華やかで人気のあったサギやツバメを押し、最終的にカワラヒワに決定したのは、身近にいるけれどスズメと間違われて、普段なかなか気が付いてもらえない、控え目なところが理由でした。



▲飛び立った時に映える翼の黄色い帯

一見地味で目立たないカワラヒワは、飛び立った時に翼の黄色い帯が美しく映えるので、そこが市民の方に興味を持って探してもらえらるきっかけとなり、鳥獣愛護につながるのではないかとということ、委員の意見が一致。その後、市長に答申を行い、カワラヒワは市



▲市が作製した「市民カード」「粗大ごみ収集シール」「封筒」。愛着を持ってもらえるよう、カワラヒワが描かれている。

制施行20周年の式典で「市の鳥」として発表されました。こうしてカワラヒワは、市の歩みとともに市の鳥に就任して25年を迎えました。今でもカワラヒワにはとても愛着があります。目立たないけれど、皆さんの身近にいるかわいらしい鳥です。ぜひ大事にしてあげてください。

野鳥を意識して歩いてみましょう



▲市街地の電線にとまるカワラヒワ

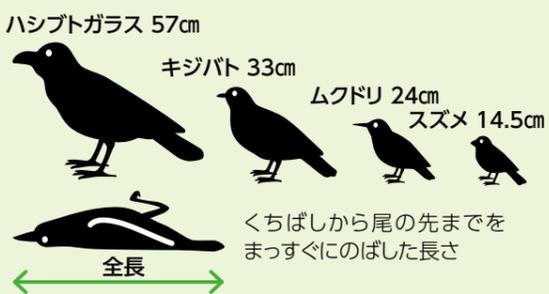
市内では、カワラヒワの他にも、多くの野鳥を見ることが出来ます。渡り鳥の飛来や、樹木の落葉で視界が広がる秋から冬は野鳥観察に最適な季節です。野鳥観察では、野鳥を見つけるまでのスリルと発見した時の喜び

知らない野鳥と出会ったら...

野鳥の名前を知っていると、親近感が湧きます。知らない野鳥に出会った時、知っている鳥と大きさを比べたり、飛び方、歩き方を観察し記録することが野鳥を知る近道になります。

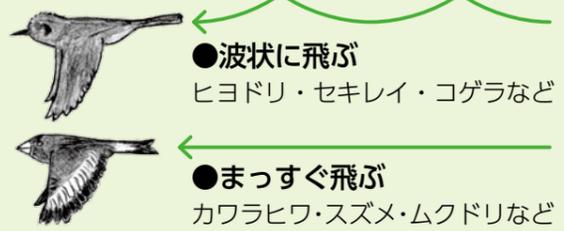
大きさ

自分の知っている鳥(ものさし鳥)と比べると分かりやすい。

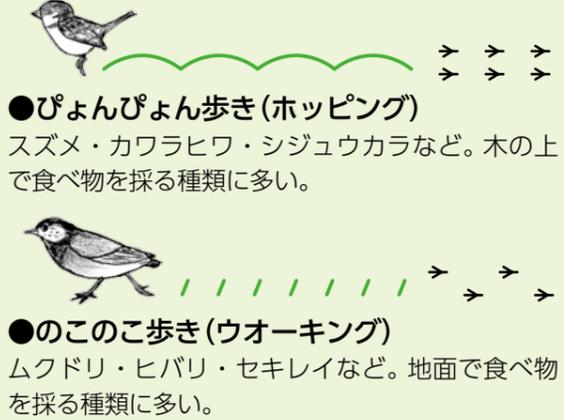


イラスト：坂本堅五氏および日本鳥類保護連盟パンフレットより

飛び方



歩き方



を味わえます。また、さえすりに耳を傾けることも楽しみの一つです。遠くの野山へ出掛けなくても、野鳥は近所の公園や市街地で見ること

とができます。野鳥観察に特別な道具は必要ありません。野鳥を意識しながら歩いてみてください。



▲ダイサギ(左)・アオサギ(右)

▲ハクセキレイ

▲コゲラ

▲トビ

カワセミ



坂本さん(右から2人目)と「海老名野鳥観察の会」の皆さん

インターネット放送局で動画配信します

インターネット放送局で11月10日(木)から「坂本先生と行く、カワラヒワを見つけよう」を配信します。併せてご覧ください。

海老名市インターネット放送局 検索